



「弥生Ⅱ米づくり」

だけじゃない?!

今からおおよそ2千400年前から千700年前といわれている弥生時代。皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか。歴史を習う小学6年生の社会科の教科書では、大陸から米作りの技術が北部九州に伝わり、その後全国へと広まった時代といわれています。

蒲郡にも、弥生時代に人間が生活していました。神ノ郷町にある赤日子遺跡、中部中学校付近に広がる門前遺跡からは、弥生土器と生活の痕跡が見つかっています。また中央公園付近、競艇場北側の丘陵からも弥生時代のつぼが発見されています。

中でも、市内最大の土器出土量を誇るのが赤日子遺跡です。平成13年度に、赤日子神社前で行われた発掘調査で、幅約2メートル、

深さ約1メートルの溝が約30メートルにわたって見つかり、そこから大量の土器が出土しました。コンテナ箱で70箱ほど、破片の数はなんと2万点近くになります。この数だけでも、近くにたくさんの方が生活していたことが分かります。

これらの土器を使っていた蒲郡の弥生人とは、どんな人たちだったのでしょうか。何を着て、何を食べて、日々どのような事を考えて生活していたと思いますか?

11月10日から始まる企画展「アカヒコムラ・ミカンの下の弥生時代」では、それらについてせまってみたいと思います。

弥生時代のイメージが変わるかも?乞うご期待!



アカヒコムラで使われた土器

歴史を語る石のロマン

皆さん、初めまして。7月から生命の海科学館に勤務することになった永田です。私は水の生き物が大好きで、主にエビの分類が専門です。これまでは、海の体験学習施設や水族館で、飼育や展示解説などを行ってきました。そんな私が生命の海科学館に来て一番驚いたことは、展示物のほとんどが石だったことです。

皆さんは、石についてどのようなイメージをお持ちでしょうか?大きさはさまざまですが、庭石、地面に敷く砂利、墓石、河原の石などたくさんあると思います。私にとって、石はせいぜい魚を飼う水槽のレイアウトで使うか、水槽のろ過材程度の存在でした。

生命の海科学館3階の展示室に入ると、黒っぽい大きな石が私たちを出迎えてくれます。その名はナンタン隕石。隕石とは宇宙にある石が、地球などの惑星に落ちてきたものです。宇宙からやってきたナンタン隕石の重さはなんと855キロ。すごく重たいですよ。主に鉄でできており(隕鉄といいますが)、地球の核の成分とほぼ同じなのだそう。この隕石が生まれたのが約46億年前。地球もその頃に誕生したと考えられています。ナンタン隕石と地球の関係は、まさに兄弟そのものです。そんなことを知ってから、身近に

落ちてくる石の一つ一つにも、地球の歴史が刻み込まれているかも?と少しロマンを感じるようになりました。生命の海科学館には、数多くの貴重な隕石や化石が展示されており、中には実際触れることができるものもあります。ご来館の際は、ぜひ歴史を語る石のロマンを感じてくださいね!



ナンタン隕石
地球が46億年前に生まれた手掛かりとなる石

生命の海から

エビ・カニ大好き!
永田理雄

生命の海科学館 ☎ 66♦1717